

まちの話題

なごみ町ガイドブック（移住定住編）完成！

11月10日、「菊池川流域の恵み」体験協議会の役員3人が来庁、なごみ子ども出版社の事業成果について、町長と教育長に報告されました。

令和3年度の成果品「なごみ町ガイドブック」は、菊水中学校1年生の坂本翔くんを含む県内中高生5人が社員となり、「行ってみよう！住もう！和みのなごみ町」というテーマを自主的に決め、記事執筆、写真・動画データの撮影やデザイン編集を行い完成したそうです。社員の日常生活や最長片道きっぷの旅（北海道稚内駅⇒佐賀県肥前山口駅）のレポート、元社員の近況報告など、移住定住を考えるきっかけとなるような情報を等身大で伝えています。

道の駅きくすいにある和水土町移住定住支援センターにて、数量限定で無料配付中ですので、興味のある人はぜひご覧ください。成果品の一部（動画）は、右の二次元コードにアクセスし、YouTubeで見ることができます。

なお、なごみ子ども出版社では、令和4年度の社員（中高校生）を募集中です。パソコンをもっと上手に使いこなしたい人、デザインやクリエイティブなことに興味がある人の応募をお待ちしているそうです。



右から「菊池川流域の恵み」体験協議会の前垣芳郎会長、高巢町長、三次浩美協議会役員、岡本教育長、山本博協議会事務局長



YouTubeの動画はこちらから

【お問い合わせ】「菊池川流域の恵み」体験協議会
なごみ子ども出版社 glocalabo@gmail.com

いっぱいゴミを拾ったよ！ ～菊水ひまわり園ゴミ拾い～

11月1日、「第1回こどもSDGsの日」として、菊水ひまわり園の58人が、県営駐車場と江田船山古墳周辺のゴミ拾いを行いました。

毎年ボランティアでゴミ拾いを行っていますが、昨年から新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、園児がゴミを探し、保育士が拾うという方法で行っています。

園児たちは、手にバケツを持って、「先生、ゴミあったよ～」「こっちにも見つけたよ」と言いながら、小さなゴミまで見つけ、一生懸命にゴミ探しに取り組んでいました。

ゴミ拾いを終えた後には、「駐車場には、たばこのゴミが沢山あったね」「公園の中には、マスクがいっぱい捨ててあったよ」と、どんなゴミがあったのか、園児同士で話す様子も見られ、ゴミへの意識を高めた子どもたちでした。



菊水ひまわり園の子どもたち。広場がきれいになって笑顔！



菊水中学校 三年 池田啓太郎

和水町教育長賞

『ワンフォーオール・オールフォーワン』

今、僕たちは勉強ができる。きれいな町を安全に歩ける。病院に行ってもあまりお金がかからないなどを、あたりまえのように感じて生きている。しかし、これらのあたりまえは、税金があるから成り立っている。

学校に目を向けてみると、まず、学校に安全に通うためのゴミのないきれいな道路、橋、電車、バス、信号も税金でつくられている。次に、授業では、教育施設の建設や、机、椅子、教科書などにも税金が使われている。さらに部活動では、大会などが行われる陸上競技場などの施設づくりにも税金が使われている。このように、あたりまえの学校生活は、多くの税金で成り立っている。

り、電車やバスの料金も高くなる。授業では、環境の整っていない所で勉強せざるを得なくなる。また、教科書代をはらわなくてはならない。そうなるとう業に参加できない人たちも出てきて、家で働かなければいけない人たちも出てくると思う。これが続くと、勉強をできなかつた人たちが大人になり、社会をになうことになり、悪循環が起これると思う。

僕たちには学校で勉強できる権利がある。このあたりまえのように感じていた権利は、税を納める国民の義務によって保障されていることを知った。僕は、正直税は、計算がめんどくさくなるし、少し値段が高くなるので嫌だなど思っていたが、自分や他の人たちの権利が保障されていると思うと、社会に貢献した気持ちになりうれい気持ちになる。

このように、税は、自分の権利を守るだけでなく他の人々の権利も守っている。税金は一人一人がみんなのために納め、災害時やコロナウイルスの感染対策など困っている人のために使われる。まさに、ワンフォーオール・オールフォーワンだなど思いました。これから大人になってさらに多くの税金を負担しなければいけないと思う。しかし、みんなのためだと思っちゃんとなめようと思つた。そうすれば、もっとより良い社会になり、いつか自分も助けられる時がくると思う。

まちの話題

令和3年度 和水町防災講習会

11月27日、旧春富小学校体育館で、「和水町防災講習会」を開催しました。春富校区の自主防災組織と消防団など、約100人が参加しました。

熊本県危機管理防災課自主防災組織活動支援員の川本収三氏を講師に迎え、「熊本県の災害発生リスクとマイタイムラインの作成」をテーマに、豪雨災害や地震の発生するメカニズム、防災マップを活用したマイタイムラインの作成手順について、お話をいただきました。

川本氏によると、「一人ひとりがマイタイムラインを作成し、災害の脅威が迫る前に、早め早めの避難を心がけ、いつ避難を開始するかを明確にしておくことで、いざという時にあわてずに避難することができ、命を守ることにつながる」とのことでした。

今回の講習会は、参加者一人ひとりが防災について考える良い機会となり、地域の防災力向上につながる大変有意義なものとなりました。



くまもとマイタイムラインガイドブック